

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文 部 科 学 大 臣 殿

令和6年10月1日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
札幌ミュージック&ダンス・放送 専門学校	平成23年6月15日	佐藤 博明	〒 060-0001 (住所) 北海道札幌市中央区北1条西8丁目2-75 (電話) 011-280-2100																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人コミュニケーションアート	昭和63年3月31日	田中 豊徳	〒 550-0013 (住所) 大阪市西区新町1丁目1-18-22 (電話) 06-6536-7161																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
文化・教養	専門課程	音楽テクノロジー科昼間Ⅰ部	平成26(2014)年度	-	平成27(2015)年度																													
学科の目的	音楽&エンターテインメント業界では、ITの飛躍的な普及により新しい時代へと突入した。今、必要とされる人材は、時代の変化に即戦力に対応できる人材である。本科では業界でプロとして仕事をするための基礎知識やヒューマンスキル、実際のコンサート・イベント等の現場で必要となる専門的な技術までを習得し、さらに様々な企業とともに行うプロジェクトイベント、コンサートを通じ、経験に裏打ちされた現場力を養い、即戦力となる人材を育成する。																																	
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	取得目標技術 ・各職業に特化した基礎知識を学習する・プロの業界人として仕事をするためのヒューマンスキルを習得する・各職業に特化した専門技術を習得する ・現場で即戦力となる専門的な技術、知識を習得する・クリエイティビティを磨き、独創性豊かな感性を養う・グローバルな視野をもち、異文化に対する理解を深める																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,800 単位時間 単位	単位時間 単位	1,800 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)	中退率																														
85人	80人	0人	0%	6%																														
就職等の状況	■卒業生数(C) : 36人 ■就職希望者数(D) : 30人 ■就職者数(E) : 30人 ■地元就職者数(F) : 19人 ■就職率(E/D) : 100% ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) ■卒業生に占める就職者の割合(E/C) ■進学者数 : 0人 ■その他 卒業優先2名、非正規雇用希望者4名 (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) (株)MSI JAPAN 東京、株式会社ウエス、ケイズサウンド(株) 他																																	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体： 受審年月： 評価結果を掲載したホームページURL																																	
当該学科のホームページURL	https://www.ssm.ac.jp/course/																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A：単位時間による算定) <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,800 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>1,620 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,440 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>1,320 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>240 単位時間</td></tr> </table> (B：単位数による算定) <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	1,800 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	1,620 単位時間	うち必修授業時数	1,440 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	1,320 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	240 単位時間	総単位数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	1,800 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	1,620 単位時間																																	
うち必修授業時数	1,440 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	1,320 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	240 単位時間																																	
総単位数	0 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																	
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																	
うち必修単位数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6人</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td> <td>4人</td> </tr> </table>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	3人	計	6人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	4人														
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	3人																																	
計	6人																																	
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	4人																																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

音楽エンターテインメント業界において、ITを使って人に感動や喜びを与えることができる人材として、即戦力を身につけるよう、職業教育を実施していくために、業界が必要とする人材を業界とともに育成する産学連携教育システムという考えのもと、業界の企業と連携した授業を実施している。また、講師会などにおいて、業界・団体の方の意見や動向、要望などを取り入れ、授業内容の見直しや授業方法の改善、工夫等を行なっていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校の教育課程編成委員会は理事会のもとに設置されている。よって、学校が編成した教育課程案は、教育課程編成委員会に付議し、必要な場合は、評議委員会において決議される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
小島 紳次郎	一般社団法人 北海道ライブ・エンタテインメント連絡協議会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
水谷 禎志	サンパフリー株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
熊谷 まさひこ	株式会社クリエイティブオフィスキュー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
高田 祐匡	株式会社シェアスタック	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
池田 正義	一般社団法人 日本音楽制作者連盟	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
小南 千恵美	株式会社ランタイムミュージックエンタテインメント	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
中根 慶之	北海道音響事業協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
佐藤 博明	札幌ミュージック&ダンス・放送専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
布村 展行	札幌ミュージック&ダンス・放送専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
津田 祐太	札幌ミュージック&ダンス・放送専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
森 晴美	札幌ミュージック&ダンス・放送専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年7月26日 14:00～15:00

第2回 令和6年3月1日 14:00～15:00

第1回 令和6年9月24日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回教育課程編成委員会では、教育課程編成委員に現状カリキュラムを「企業ニーズを反映した実践的かつ専門的な人材育成」という観点でご確認いただき、ご意見をいただいた。第2回では、第1回での意見を踏まえ、新たな授業の開設やシラバスの改善などを反映したカリキュラム案について確認、ご承認いただき、次年度カリキュラムとした。

企業等委員の意見

・自分で課題を見つけ、自分で改善策を考え、自分の言葉でプレゼンテーションするスキルの向上

・映像コンテンツの需要にともなう、授業シラバスの見直し

→「ビジネススキル」のシラバスを改定しプレゼンテーションをする機会を増やした。「映像技術」のシラバスを、より高い映像編集スキルを習得できるよう改定した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

3つの教育理念(実学教育・人間教育・国際教育)を掲げ、業界が求める人材を業界とともに育成する(産学連携教育)という考えのもと、業界の方から直接学生が目指す職業に必要な知識・技術を指導している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業プロジェクト・企業課題や企業研修などを通じて、目指す職業に必要な知識・技術を習得させる。直接業界の方に指導並びに作品審査や評価をいただき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
企画演習	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	SDGsの考え方を理解し、マーケティング理論のもと社会貢献できる製品やイベント企画、現代社会との関わり方	モンスターデザイン
音響技術演習	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	PAとミュージシャンによるアンサンブル演習でコンサートにおける実践力を養う。	音響スタッフ
照明技術演習	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	照明とミュージシャンによるアンサンブル演習でコンサートにおける実践力を養う。	プラスワンステージ
イベント制作演習	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	企画・制作・運営の準備と対策方法とブッキング、広告宣伝、動員までの一貫を学び、イベント・プロジェクトを制	モンスターデザイン
製図	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	Vector Worksを学び、図面の作成ができるようになる。	プラスワンステージ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修は、教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、向上させるために行う。

研修対象は一般教員、学科長及び教務部長とし、ここの教育経験、在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた到達目標、研修方法並びに、評価指標を定めて実施。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	DX推進研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和5年9月8日	対象:	DX推進担当教員1名
内容	学校業務において、DXを加速するために担当人材の育成を行う。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	進路アドバイザー研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和6年8月27日	対象:	進路アドバイザー担当
内容	学校生活不全を訴える学生に対して、進路変更を検討・推進する担当者の養成を行う。		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	音楽関連生成AI・DX研修	連携企業等:	Polar Tech Inc.
期間:	令和6年1月29日	対象:	全職員
内容	音楽制作における生成AI活用と教育への導入及び教育におけるDXIについて		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	進路アドバイザー研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和6年8月27日	対象:	進路アドバイザー担当
内容	学校生活不全を訴える学生に対して、進路変更を検討・推進する担当者の養成を行う。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

卒業生代表、保護者代表、近隣関係者、高等学校関係者とともに、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が行なった。自己点検、自己評価の内容を通し、学校運営の改善に生かすことを方針としている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、目的、育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

職業人教育を通して社会に貢献できるよう、健全な経営基盤を持つ学校運営を目指す。そのために、学校評価委員会の委員からの意見を踏まえて、教育活動・環境の充実や学生支援の強化などを改善している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
藤野 紗菜	卒業生	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生代表
高橋 保枝	在校生保護者	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	保護者代表
大柳 依里	東海大学付属札幌高等学校	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	高等学校関係者
塚本 澄雄	中央地区第4町内会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域関係者
小島 紳次郎	一般社団法人 北海道ライブ・エンタテインメント連絡協議会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
水谷 禎志	サンバフリー有限公司	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
熊谷 まさひこ	株式会社クリエイティブオフィスキュー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
高田 祐匡	株式会社シェアスタック	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sba.ac.jp/school/public_info/

公表時期: 令和6年4月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の運営状況や教育活動等の情報をホームページにて公開するほか、事業計画の実行方針において提起された目標を具体化するために、企業などから意見聴取を行い、業界の動きを踏まえた実行計画を作成している。具体的な事例として、講師会等にて企業課題や授業科目、内容について検討を重ね、意見を反映させてから、様々な企業との連携を図っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	校長名、所在地、連絡先、学校の沿革、建学の理念、学校安全関連、保健対策
(2)各学科等の教育	受入方針、定員、在校生数、卒業生数、カリキュラム(教科課程表)、シラバス、
(3)教職員	教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	産学連携教育
(5)様々な教育活動・教育環境	設備紹介、海外実学研修、海外専門留学
(6)学生の生活支援	中途退学者防止への取り組み/中途退学状況・進路変更委員会・SSC
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧、奨学金・教育ローン案内等
(8)学校の財務	財務資料
(9)学校評価	学校関係者評価委員会
(10)国際連携の状況	留学生支援、留学生受入状況、海外提携校との交流状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sba.ac.jp/school/public_info/

公表時期: 令和6年4月1日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法				場所			教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携		
															○	○	
1	○			キャリア教育	会話スキル、自己表現スキル、社会的スキル、サービスマインドを学び、円滑なコミュニケーションができるようになる。	1通2通	##		○			○					○
2		○		デジタルファウンデーション	基本図形や様々なツールを用い、イラストやマーク、名刺作成などIllustrator/Photoshopの基礎知識を身につけ、操作ができるようになる。	1通	60		○			○					○
3		○		キャリアデザイン	社会で働くイメージを構築し、自身がどのような価値観や職業観を持っているか、自分が将来何をしたいか意思決定できるようにする。	1通	60		○			○					○
4		○		音楽ビジネス概論	コンセプトと企画立案の考え方を学び、アイデアフラッシュによる発想と企画力をトレーニングする。	1通	60		○			○					○
5		○		音楽理論	論理的思考力を身につけ、組織の中でどのように対処すべきか考える力と行動力を学び、円滑に組織と関わることができるようになる。	1通	60		○			○					○
6		○		イヤートレーニング	音に対して敏感に聴き分けることができる能力を養う	1通	60		○			○					○
7		○		音楽・映像・舞台史	音楽業界における経営戦略のケーススタディを用いつつ、顧客ニーズを理解する方法を学ぶ。買手のニーズに応える、製品やサービスの発想ができるようになる。	1通	60		○			○					○
8		○		発声・滑舌	音響におけるチューニング等知識を学び、イベント・プロジェクトにおける仕込みやリハーサル、本番時の基礎的なオペレーターの時間管理、作業ができるようになる。	1通	##		○			○					○
9		○		ダンスファンダメンタル	現在のミュージックシーンをジャンルなどの様々な角度から考察し、それらのルーツや歴史を習得する。	1通	60		○			○					○
10		○		著作権	音楽ビジネスを展開していく上で必要不可欠な著作権の知識、音楽に関する権利関係及び	1通	60		○			○					○
11		○		グローバルコミュニケーション	マネージャーとして必要な発振力、プランニング、プレゼンテーション、プロデュース力を身に付け、よりグローバルな発想・発信ができるようになる。	1通2通	##		○			○					○
12		○		企画	演出・進行を理解し、舞台監督及び進行スタッフとしての業務をひと通り行うことができるようになる。	1通2通	##		○			○					○
13		○		音響基礎	音響に関する基礎知識を習得する。	1通2通	##		○			○					○
14		○		照明基礎	照明に関する基礎知識を習得する。	1通2通	##		○			○					○
15		○		映像基礎	映像撮影・編集に関する基礎知識を習得する。	1通2通	##		○			○					○
16		○		音響技術	音響オペレーターに必要な知識として、さまざまな音での舞台演出や、臨場感を表現する力・感性を養う。	1通2通	##		○			○					○
17		○		照明技術	照明プランナーやオペレーターに必要な知識として、さまざまな舞台演出や、光の効果を表現する力・感性を養う。	1通2通	##		○			○					○
18		○		映像技術	撮影の基本となるENGカメラの撮影方法を学び映像を撮るための演出方法を学ぶ。テレビ音声技術の基礎と知識を学ぶ。	1通2通	##		○			○					○
19		○		映像編集	動画加工ソフト「AfterEffects」の使い方を学び、映像のデジタル合成やモーション・グラフィックス、タイトル制作などの技術を習得する。	1通2通	##		○			○					○
20		○		特殊機材技術	現場に必要な音声・動画の編集が出来るようになる。	1通2通	##		○			○					○
21		○		舞台制作	舞台美術を理解し、台本を読み図面に具現化する力をつけ、またプランを出せる応用を習得する。	1通2通	##		○			○					○
22		○		広告・宣伝	プロモーション力の基礎や技術を学び、タレントプロデュースのノウハウを説明できる。	1通2通	##		○			○					○
23		○		プロダクション実務	様々なイベントで基礎的な運営やマニュアル作成ができるようになる。応用では、チームの中でリーダーシップをとり、進めていくことができる。	1通2通	##		○			○					○
24		○		イベント制作	イベント制作を通じて、チームワークを養い企画・制作・技術力を伸ばす。	1通2通	##		○			○					○
25		○		イベント運営	イベント運営を通じて、チームワークを養い運営スキル・技術力を伸ばす。	1通2通	##		○			○					○

26	○	楽器演奏	様々な楽器の特性を知り、コンサート演出に役立てる力を身につける	1通2通	##		○	○	○	○										
27	○	ヴォイストレーニング	コンサート現場等で必要なコミュニケーション能力を身につける	1通2通	##		○	○	○	○										
28	○	デッサン	舞台・ステージデザインに必要な創造力を身につけ、図面制作スキルを養う。	1通2通	##		○	○	○	○										
29	○	作詞・作曲・編曲	アーティストの楽曲のコンセプトを理解し、コンサート演出に役立てる力を身につける	1通2通	##		○	○	○	○										
30	○	パフォーマンス	アーティストのパフォーマンスを理解し、コンサート演出をよりクオリティの高い物にできる力を身につける	1通2通	##		○	○	○	○										
31	○	企画演習	SDGsの考え方を理解し、マーケティング理論のもと社会貢献できる製品やイベント企画、現代社会との関わり方を学びサステナビリティ経営を学ぶ。	1通2通	##		○	○	○	○										
32	○	音響技術演習	PAとミュージシャンによるアンサンブル演習でコンサートにおける実践力を養う。	1通2通	##		○	○	○	○										
33	○	照明技術演習	照明とミュージシャンによるアンサンブル演習でコンサートにおける実践力を養う。	1通2通	##		○	○	○	○										
34	○	映像技術演習	コンサート撮影から編集まで一貫したスキルを身につける。	1通2通	##		○	○	○	○										
35	○	舞台制作演習	舞台監督としての応用力を身につけ、技術や知識を学ぶ。	1通2通	##		○	○	○	○										
36	○	イベント制作演習	企画・制作・運営の準備と対策方法とブックイング、広告宣伝、動員までの一貫を学び、イベント・プロジェクトを制作・進行することができる。	1通2通	##		○	○	○	○										
37	○	イベント運営演習	テーマやコンセプトにあった企画をプレゼンテーションし、広告宣伝、制作運営、動員までの一貫を学び、イベント・プロジェクトを遂行できる。	1通2通	##		○	○	○	○										
38	○	レコーディング演習	配信コンサートにおける音響録音技術、配信技術を身につける	1通2通	##		○	○	○	○										
39	○	製図	Vector Worksを学び、図面の作成ができるようになる。	1通2通	##		○	○	○	○										
40	○	造形	あらゆる造形素材の使い方と特徴を把握し、作品製作を通じて、技術と知識を学ぶ。	1通2通	##		○	○	○	○										
41	○	道具制作	舞台・芝居で使用使用する小道具制作に必要なスキルを身につける	1通2通	##		○	○	○	○										
42	○	第二外国語	第2外国語として韓国語の基礎を習得する。	1通2通	##		○	○	○	○										
43	○	デザイン	パワーポイント作成、レイアウトの仕方、話し方を学び、相手に伝わりやすい効果的なプレゼンテーションができるようになる。	1通2通	##		○	○	○	○										
44	○	プロダクション演習	ビジネスマナー、接客マナー、スピーチなど社会で働く上でのスキルを身につけ、ビジネスパーソンとして行動することができるようになる。	1通2通	##		○	○	○	○										
45	○	プロデュース	コンサート演出に必要なプロデュース力を身につける	1通2通	##		○	○	○	○										
46	○	就職対策講座	企業研究、履歴書作成、面接、マナー、就職への心構えも含めた対策講座。	2通	60		○	○	○	○										
47	○	業界研修	企業に赴き、インターンシップとして実際の現場の仕事を体感し具体的な職業観を養う。	2通	60		○	○	○	○										
48	○	制作演習	進級・卒業制作、インターナショナルプログラム、各種イベント制作、企業プロジェクトなどのエクステンションプログラム。	1通2通	##		○	○	○	○										
49																				
合計				49	科目	2700 単位(単位時間)														

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業・進級の判定基準は以下のとおりとする。 卒業要件： 1. 1年次900時間(60単位)、2年次900時間(60単位)以上、3年次900時間(60単位)以上を修得した者は進級・卒業することができる。 2. 上記に該当する者は卒業・進級判定会議により最終決定する		1学年の学期区分	2期
履修方法：基礎科目・専門基礎科目より900時間以上、専門科目・特別教育科目より1800時間以上履修 (留意事項)		1学期の授業期間	15週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。